「第4回抜山記念国際賞」の経過と授賞報告

Report of the Fourth Nukiyama Memorial Award

岡崎　健（東京工業大学）
Ken OKAZAKI (Tokyo Institute of Technology)
e-mail: okazaki.k.aa@m.titech.ac.jp

１．はじめに

本会創立50周年を機に創設された抜山記念国際賞（Nukiyama Memorial Award，以下NMA）は2018年8月，北京にて開催された第16回国際伝熱会議において第4回目の表彰を行いました．筆者は，当時会長だった2014年より3回にわたり選考に関わり，今回は委員長を務めました．ここに，本賞の選考経過の概要を，事務的な引き継ぎ事項も含めて報告させていただきます．

２．NMA委員会の構成と選考日程

NMA委員会のメンバー構成を表1に示します．3名の日本人委員は，委員 → 副委員長 → 委員長という3期を担当します．一方，4名の外国人委員は毎回2名ずつ改選し，2期を担当します．賞の運営を実質的に主導する日本人委員の継続性を3名で担保しつつも，委員会全体の過半数以下に抑えられた構成になっています．委員の交代は内規（付録参照）に基づき，贈賞年度の前年の4月または5月の理事会で承認されます．

NMAの授賞式は，表2に示すように，原則として秋の本会主催（共催）の国際会議で行われる場合と夏の国際伝熱会議（IHTC）で行われる場合がありますので，受賞者への早めの通知（授賞式出席や受賞講演依頼など）の点から理事会承認のタイミングが異なります．なお，公式発表はどちらの場合も，総会開催日（日本伝熱シンポジウム中日）です．

抜山四郎先生

1896（明治29）年3月15日
～1983（昭和58）年7月2日
有名な沸騰曲線は
1934（昭和9）年―38歳の仕事
1963（昭和38）年本会第2代会長
（伝熱2002年5月号参照）

NMAの公募や選考は，これらのタイミングに間に合うように行います．NMA2018は表3のようにNMA 2014にほぼ準じましたが，次回NMA 2020の授賞式はACTS 2020（宮崎）ですので，Call for Nominationsは2019年10月までに行う必要があります[3]．

表2　授賞式と理事会承認のタイミング

受賞式	理事会承認
2012/11/14（IFHT 2012 長崎）	2012/ 4
2014/ 8/14（IHTC-15 京都）	2013/12
2016/11/ 3（IFHT 2016 仙台）	2016/ 4
2018/ 8/14（IHTC-16 北京）	2017/12
2020/11/??（ACTS 2020 宮崎）	2020/ 4

表3　NMA 2018の選考日程

2017/ 6/30	Call for Nominations
2017/ 9/20	Deadline for Accepting Nominations
2017/11/20	Final Decision by NMA Committee
2017/12/ 9	Approval by HTSJ Board of Directors
2018/ 5/30	Press Release at 54th NHTS in Sapporo
2018/ 8/14	Award Ceremony at IHTC-16 in Beijing

表1　抜山記念国際賞委員会のメンバー構成

年	委員長	副委員長	日本人委員	外国人委員			
2012	笠木 伸英	門出 政則	吉田 英生	A. Bar-Cohen	P. Cheng	G.P. Celata	S. Kandlikar
2014	門出 政則	吉田 英生	岡崎 健	G.P. Celata	S. Kandlikar	J.S. Lee	T.W. Simon
2016	吉田 英生	岡崎 健	円山 重直	J.S. Lee	T.W. Simon	P. Stephan	X. Zhang
2018	岡崎 健	円山 重直	高田 保之	P. Stephan	X. Zhang	J. R. Thome	J. H. Lienhard V
2020	円山 重直	高田 保之	?	J. R. Thome	J. H. Lienhard V	?	?

（PDFのカラー版でご覧いただくと，交代時期が同一の3名が同色で表されています．）

図1　授賞式にて（IHTC-16, 2018 8/14）
右から Wang教授，近久会長・筆者
賞状・盾・賞金（目録）が授与された

3．NMA 2018

NMAも国際的に高く認知されてきており，推薦数は多くはなかったものの，今回も重みのあるそうそうたる候補者が推薦されてきました. 7名の委員による厳正な審査の結果，Ruzhu Wang 中国・上海交通大学教授が，空調・冷凍，エネルギーシステムなどに関する熱工学，伝熱工学の分野での顕著な業績および国際活動，論文数，引用件数（h-Index:53）が抜群であることが高く評価され，第4回目の受賞者に決定しました.

授賞式は受賞者の母国中国の北京市にて開催されたIHTC-16のBanquetにおいて2018年8月14日，近久武美会長から賞状と盾，および賞金目録が授与されました．BanquetにおけるAwards Ceremonyでは，NMAのほか，Luikov Medal, William Begel Medal, Fellowship Awardなど，数多くの授賞式が行われましたが，NMAが最初でかつ最も重きがおかれており，主催者側の配慮が感じられました.

4．むすび

伝熱分野の数ある国際賞の中でも，NMAは確実に最も権威のある賞の一つとしての存在感を示すに至ったことをつくづくと感じました．R-Z Wang教授からも，受賞を大変光栄に思う，中国にとっても大きな誇りである，とのメッセージが届きました.

開会式直後のPlenary Sessionで行われたNMA Award Lectureも非常に格調の高いもので，聴衆に感銘を与えました.

ただ，今後，NMAが継続的に高い地位と権威を保ち続けていくためには，以下の3点について，次期のNMA委員会で十分な検討を行っていただくことを希望します.

1．世界からの推薦件数の増加とその方法
2．NMAの位置付けと性格の再確認
- 若手としての年齢制限の許容範囲（Charterで推奨される50歳以内の超過をどこまで許すか）
- 抜山先生の基礎研究にちなんで受賞対象を基礎に重点を置くか，応用をも広く含むか

3．業務推進体制の改革

現在の体制では，推薦・審査プロセス・WEB掲載原稿などのあらゆる事務手続き，最終候補者とのやり取りとパンフレット作成，賞状，盾などの発注・校正・受け取り，重い現物の現地への運搬，賞金手配依頼，国際会議実行委員会との交渉，報告書作成まで，すべてを委員長が1人で行うようになっています．ルーチンで組織的な対応ができるシステムにしていかないと，制度そのものの継続性にも影響を及ぼしかねないことを危惧します.

付録
抜山記念国際賞委員会の委員交代に関する内規

①総務担当副会長は日本伝熱学会役員（理事および監事）に役員一人あたり日本人3名以内，外国人3名以内の候補者（氏名，所属，e-mail address）の推薦を依頼する.

②総務担当副会長は退任予定の選考委員（3名）に委員一人あたり日本人3名以内，外国人3名以内の候補者（氏名，所属，e-mail address）の推薦を依頼する.

③国際賞委員会において，候補者の内から3名の最終候補者を選考する.

④国際賞委員会は会長，副会長と協議して3名の最終候補者の順位付けを行う.

⑤国際賞委員会において，上位3名の最終候補者を任期2期のMember（3名）候補者とし，理事会に報告する.　（2012年4月21日）

参考文献

[1] 門出政則，「抜山記念国際賞」の経緯と授賞報告，伝熱，52-219 (2013) 1.
[2] 門出政則，「第2回抜山記念国際賞」の経緯と授賞報告，伝熱，53-225 (2014) 97.
[3] 吉田英生，「第3回抜山記念国際賞」の経過と授賞報告，伝熱，56-235 (2017) 1.